

電源立地地域温排水対策事業調査

藤田 修央・早川 豊

発 表 誌 名

昭和62年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）

抄 録

1. ヒラメ浮遊期仔魚分布調査

東通村白糠～小田野沢海域において7月～10月にかけて延べ4回（計58点）、稚魚ネットによる夜間表層曳（5分間）を行い稚仔魚の採集を行った。

ヒラメ仔魚は7月中のみ3尾（7月2日・1尾、7月21日・2尾）採集されたが、全長及び水温等から6月下旬～7月中旬の間に産卵されたものと思われる。

その他の稚仔魚では、イワシ類（シラス型）、ネズッコ sp.、メバル属 sp.、ホッケ、トビウオ sp.、イシダイ等の稚魚が採集された。

2. ヒラメ着底期稚魚及びイカナゴ成魚・未成魚分布調査

同上海域において10月に1回（計8点）、桁網による採集を行った。

ヒラメは水深10mで2尾（全長 4.5cm及び11.8cm）採集された。全長から推測すると2尾とも当才魚と思われた。

ヒラメの採集された場所は、アラメガレイ、ハスノハカシパン、端脚類、等脚類の分布する砂底であった。

イカナゴは、水深30m（砂泥～砂利）で、1尾採集され、昨年（水深6m）より深い場所であった。個体の体長等から当才魚と推定された。

3. サケ稚魚分布調査

尻労、白糠、泊地区のイカナゴ光力利用敷網着業船に対し、混獲サケ稚魚の採集を依頼し、泊地区から標本を得た。

標識魚（4月27日、老部川放流・10万尾、尾鰭下部切除）は、放流翌日から3日間、南側の泊地区で再捕された。一方9日後に三沢地先で再捕されているが、尾叉長から推測するとこの群は老部川標識放流群ではないと思われた。今年は、老部川より南側で操業しており、北側での分布状況は不明であった。

胃内容としては、魚類（イカナゴ）、撓脚類、端脚類（ヨコエビ類）、十脚目（エビ、カニ類幼生）、クマ類、アミ類、昆虫類など多種にわたり、一定の傾向は見られなかったが、大型魚程魚食性が強く、餌量の選択性は比較的小さいものと思われた。